

各位

上場会社名 株式会社 小島鐵工所
代表者 代表取締役社長 児玉 正蔵
(コード番号 6112)
問合せ先責任者 取締役執行役員経理部長 田中 教司
(TEL 027-343-1511)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成29年1月11日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成29年11月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成28年12月1日～平成29年5月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	800	1	5	2	0.20
今回修正予想(B)	614	△97	△88	△81	△8.15
増減額(B-A)	△186	△98	△93	△83	
増減率(%)	△23.3	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成28年11月期第2四半期)	868	△49	△40	△41	△4.18

修正の理由

当社の主製品である大型油圧プレス機は、形状、能力、機能のほか、納期、一台当たりの金額もそれぞれ異なる個別受注生産でありますので、月単位での売上は一定しておらず、季節の変動によるものでもなく、納期的、金額的なバラツキにより売上の変動が大きく、また、当社製品が大型機械ゆえ、設計・生産着手から納品・据付まで平均して1年程度を要するため、受注から売上計上まで相当期間のズレが生じてしまうのが当社事業の特性であります。なお、一部請負工事物件につきましては工事進行基準を適用して売上処理を行っております。

このような事業の特性を持つ当社におきまして、当117期第2四半期累計期間における売上高につきましては、受注時期の関係から、納期が当117期第3四半期以降に到来する大型案件が多いため、工事進行に係る売上が進まず、前回予想数値(8億円)及び前年同期(8億68百万円)を下回る6億14百万円の計上となる見込みであります。

利益面につきましては、引き続き原価低減や諸経費全般に亘る削減に努めており、それなりの効果が見られているものの、固定費を吸収できる売上高に至らず、当四半期純損失は、不本意ながら前回予想数値(2百万円)及び前年同四半期当期純損失(41百万円)に比べ81百万円となる見込みであります。

なお、受注状況につきましては、当第2四半期累計期間の受注高は、国内製造業界の緩やかな回復状況を背景に、製鉄・鉄鋼・建設業界等を軸として順調に拡大傾向を続けており、前年同期(4億42百万円)から11億54百万円と大きく飛躍することができました。また、受注残高につきましても、前年同期末(7億21百万円)から約倍増となる16億84百万円を確保できており、今後の売上増加に期待しているところでございます。現在、国内の鍛造・製鉄業界を中心に引き合いが浮上している大型案件の成約に向け全力で取組んでおり、一層の受注増加を目指しているところでございます。

平成29年11月期通期個別業績予想につきましては、現在、優良な大型・中型物件と折衝中であり、原価面におきましても、採算重視・効率生産体制が軌道化していることから、売上高・営業利益・経常利益・当期純利益に関しましては前回発表の予想通りで推移できる見込みであります。

※上記予想は、現時点に於いて、入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって、予想数値と異なる結果になる可能性があります。

以上